

# 家中の中で、 森の中。

原生林とも、息の合う家。

「リスや、キツネや、鳥も来るし、あそこには一面に紫色の花が咲くんですよ」

居間に続く階段脇の大きな窓の外には、ワイルドな円山原生林が広がり、居間の東窓からは、お隣の庭の見事な桜の借景が。そのまま目線を南側の大窓に移すと、今度は銀色に光る札幌ドームまでの市内を見晴らす眺望が展開。思わず「札幌・絶景美術館」とでも名づけたくなる立地と設計に、いやや、ため息の連続です。

「主人の転勤で関西から札幌に来て、最初は2~3年で戻るつもりがすっかり気に入り、結局家を建てることに。北海道は、他の土地とは空気が違いますね。気持ちが良くて、何だかホッとします。この家ができるからはなおさらそうで、ここに居るだけでホッとします。建てて7年ですが、この家の全部が大好き! 床は道南のブナ材で、国産無垢材をふんだんに使ってもらいました。深い色にしたくて塗つてもらったのも自然塗料だし、壁は家族で塗った珪藻土。家自体が呼吸してるから、家も生きてるんだな、私たちと一緒に呼吸してるんだな、って感じますね」と智子さん。

この家は、言ってみれば家に変身した「住める森」。なるほど、原生林とも、動物たちとも、すんなり調和するワケですね。

一緒に年を重ねてく。  
一緒に味を増してゆく。

「家は10年からが勝負。木の色も深まり、所々傷も付き、徐々に味を増していくんだと思います。直して、使って、ずっと付き合っていく。それが楽しみですね」と、使い捨て社会とは全く逆思考の智子さん。

「この家にしてこの言葉ありますね。

「どのハウスメーカーにもピンと来なかつたのに、西條さんのHPを見て自然素材へのこだわりにビビッと来て即決」の所以は、やはりエコのセンスが合致したから? 「エコ? うーん……特に意識したことないですね……」

「必ずからるべきもの」自然。さすが、毎日森を呼吸していると、無意識のうちに、自然とエコさんになるのですね……!

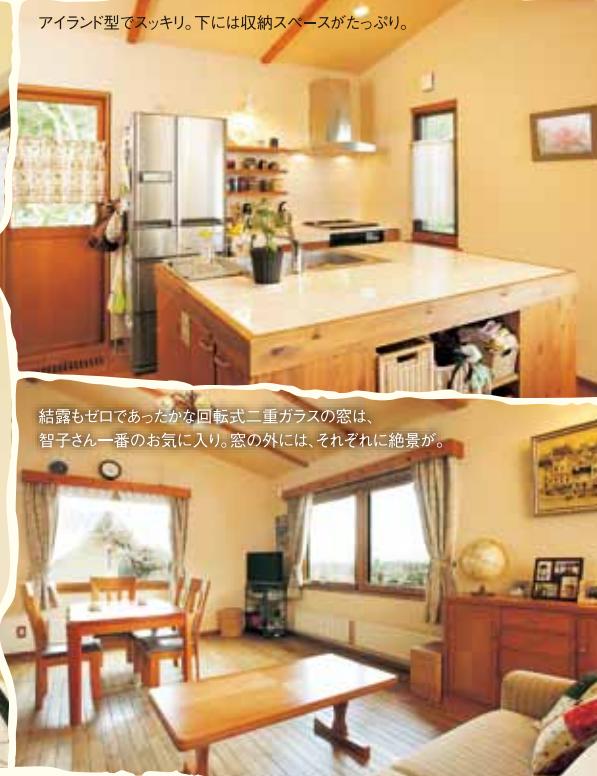
この記事の続きは、HPでお楽しみください。  
<http://www.saijo-c.com>

大谷智子さん

働き者のダンナ様の妻であり、関西の大学に通う息子さんと、地元の高校に通う娘さんの母。……とは思えぬ若々しさ!



アイランド型でスッキリ。下には収納スペースがたっぷり。



結露もゼロであったかな回転式二重ガラスの窓は、智子さん一番のお気に入り。窓の外には、それぞれに絶景が。



玄関先の薪ストーブで、吹雪の冬も、扉を開けたらすぐあったか。



断熱材の前世も森です。

大谷さんのお宅では、道産天然材とともに、古新聞リサイクルの断熱材を使っています。新聞紙の原料はパルプ、つまり木材。地元で読まれた新聞紙を江別の工場で加工するこの断熱材は、森の恵みを捨てることなく最後まで活かし切る有効手段。物理的に暖かいだけでなく、心も温かくなる素材です。

エコデザイナー 西條 正幸

**Bio+**  
ビオプラス西條デザイン

◎企画・設計 有限会社 ビオプラス西條デザイン  
本社〒002-8081 札幌市北区百合が原4丁目8-1  
Tel.011-774-8599 Fax.011-774-8581

